予告 Future Event

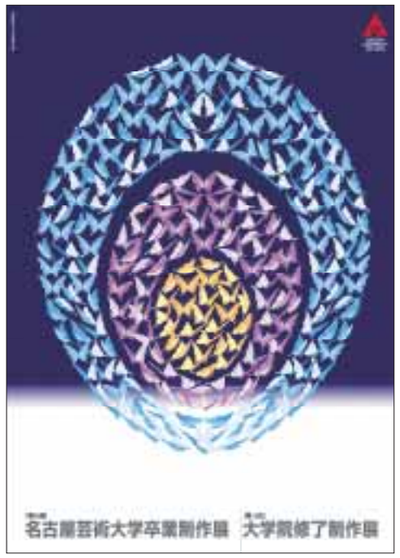
[第35回] 名古屋芸術大学卒業制作展
[第12回] 大学院修了制作展

[第35回]
名古屋芸術大学卒業制作展

愛知県美術館ギャラリー［愛知芸術文化センター8F］
2008年2月27日［水］ー3月2日［日］ 10:00➔18:00（金曜日は20:00まで）
［美術学部］ 絵画科日本画／洋画コース・美術文化学科
［デザイン学部］ デザイン学科

名古屋市民ギャラリー矢田
2008年2月26日［火］ー3月2日［日］ 9:30➔19:00（日曜日は17:00まで）
［美術学部］ 造形科・版画選択コース
［デザイン学部］ デザイン学科

名古屋芸術大学 アート＆デザインセンター
2008年2月26日［火］ー3月2日［日］ 10:00➔18:00（日曜日は17:00まで）
［美術学部］ 絵画科洋画コース



[第12回]
名古屋芸術大学大学院修了制作展

名古屋市民ギャラリー矢田
2008年3月4日［火］ー3月9日［日］ 9:30➔19:00（日曜日は17:00まで）
美術研究科／デザイン研究科

卒業制作展記念講演会
2008年2月29日（金）14:00➔16:00
愛知芸術文化センター12F アートスペースA
講演者：真野 響子氏 [女優]
「私を魅了するアート」 ※申込は終了しています。

蒼の吟遊詩人 佐藤圀夫展
—名古屋芸術大学収蔵作品展—

2008年3月26日［水］ー4月9日［水］
12:00➔18:00（最終日は17:00まで）日曜休館 入場無料
会　　場：名古屋芸術大学アート＆デザインセンター

名古屋芸術大学名誉教授であった日本画家・佐藤圀夫（1922-2006）。
遺族より本学に寄贈された作品を展観します。

「碧の風」1992年

アート＆デザインセンター
4 EXHIBITION SCHEDULE 5
展覧会スケジュール
Open 12:00ー18:00
（最終日は17:00まで）
日曜日・4/29ー5/4休館

［入場無料］どなたでもご覧いただけます。

3/26水→	4/ 9水	蒼の吟遊詩人 佐藤圀夫展 ー名古屋芸術大学収蔵作品展ー
4/11金→	4/16水	ごちゃ展
4/11金→	4/16水	日々と刻々と寂
4/18金→	4/23水	デザイン学部選抜レビュー展
4/25金→	5/ 7水	写真部展
4/25金→	5/ 7水	3年生展
5/ 9金→	5/14水	洋画3年5人展
5/ 9金→	5/14水	1+1=たんぼの田、だろうか？
5/16金→	5/21水	造形家による照明の証明
5/16金→	5/21水	ying yang
5/23金→	5/28水	お国 展
5/23金→	5/28水	PEACE NINE展
5/30金→	6/11水	FROM REMISEN #10 Sigrun Gunnarsdottir × Ulrike Donie

Art & Design Center
名古屋芸術大学アート＆デザインセンター　〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 tel.0568-24-0325　tel/fax.0568-24-2897

編集後記

先日のソウル・南大門が放火により全焼したというニュースは衝撃的でした。1994年、スペイン・バルセローナのリセウ劇場も火事に見舞われ全焼しました。世界遺産でも国宝でもありませんでしたが、ミラノのスカラ座にも劣らないと、世界の劇場ファンの心を掴んでいました。何度か訪れていたその劇場全焼のニュースを聞いたときの衝撃は大きく、特別なオペラファンでもない私が心からの悲しみを覚えるほどに、その佇まいは高貴で美しいものでした。1999年には再建されましたが、建物も人もモノも一期一会。その時の気持ちや情景をしっかり心に留めておくとともに、芸術を遺していくことの重さ・大切さを改めて考えました。

Ble　Vol.20
発行日　2008年2月25日
編　集　江坂恵里子（アート＆デザインセンター）
発　行　名古屋芸術大学アート＆デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
Tel. 0568-24-0325　Fax. 0568-24-0326（代表）
Tel/Fax. 0568-24-2897（直通）
E-mail adc@nua.ac.jp
URL http://www.nua.ac.jp
デザイン　岩田知人（サンメッセ株式会社）
印　刷　サンメッセ株式会社

2008 Printed in Japan
© Art & Design Center, Nagoya University of Arts

最寄りの交通機関をご利用の場合
名鉄犬山線（地下鉄鶴舞線乗り入れ）
徳重・名古屋芸大駅下車西へ約1,000m徒歩15分
※急行・準急電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください
中部国際空港からも名鉄犬山線をご利用ください
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります

自動車をご利用の場合
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分。

大学基準協会認定マーク
本学は2006年4月に認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。
認定期間は2006年4月から2011年3月までです。
これによって法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。

NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS
名古屋芸術大学

B!e

2008 Vol. 20
ART & DESIGN CENTER NEWS

特集 keep our cultural heritages

芸術を遺す

失われた大石仏像

2001年3月の或日の朝、私は朝刊紙を広げたまゝ暫らくの間、全く茫然自失の状態に陥っていた。紙面にはくっきりと三葉形の仏龕（ぶつがん）を残したまゝ、タリバンによって爆破され無残に崩れ落ちた、アフガニスタン・バーミヤーンの大石仏像の瓦礫の堆積のカラー写真が載っていた。続いて私は、何とも名状し難い、しかし確実な激しい喪失感に襲われた。少し時間が経過して、私は、それを、人間にとってひとつの支えであった逞ましい支柱が失われたと実感するようになった。その強烈な実感は、時間の経過によっても癒されることはなく、重い澱となって自身の底に沈殿し、繰返し意識に立ち戻ってくる「あれはもう無いのだ。」という喪失感となっていった。私にとってバーミヤーンの大石仏像は、若い頃に初めてその調査活動に参加した思い入れの深い遺品であり、その喪失感にそこから来るものが含まれていたことも間違いないであろう。しかし、今私の底の方に澱となっているものは、そのようなロマンティックで懐古的な喪失感と言うには、重すぎるように感じている。

バーミヤーンの大石仏像は、すでにはるか昔に仏像としての役割は終え、その後のアラブ人による顔面の毀損や数次に亘るアフガン戦争、更には自然による崩壊に委ねられ、もはや単なる過去の遺物以上の何物でもなくなっていた。それにもかゝわらず、その存在を知ってから私には、それは人間の偉大さとその歴史を支え続ける、いわば〈人間性〉を確信させる支えのひとつとなっていたことは間違いない。奈良東大寺の大仏像の破壊と復元の歴史を持ち出すまでもなく、今、世界が宗教や民族、政治を超えて、協力してその気の遠くなるような復元を目指している企てを見ても、バーミヤーンの大石仏像が人類の貴重な遺産として誇っていた価値は、単に私個人の思いではなく、世界が共有していた価値であったことの証明だと思う。そしてそこにこそ、決して是認することはできないが、タリバンが世界の非難を浴びる暴挙であることを承知したうえで、敢て大石仏像の爆破に踏み切った理由があったと思う。皮肉なことにタリバンによる破壊によって改めて、人類にとってバーミヤーンの大石仏像が存在した真の価値が鮮明にされたようにさえ思えるのである。

この原稿を書いている今、韓国の国宝第一号・ソウル市の南大門の火災で焼け落ちる映像が繰返しテレビに映し出されている。一方我国では今、遅まきながら傷みの激しい高松塚古墳の壁画の修復保存が、国のプロジェクトによって始められた。仏教に言う諸行無常の理（ことわり）、「形あるものは必ず滅び失われる。」は、決して誰にも止めることはできない。たゞ私達は、目先の状況ではなく人類の歴史に立って、失われる前に、それを失わせる理由が失われるものの価値に比して正当か否か、冷静に見極めたいと思う。それが人類のためにあたりまえに可能な世界、社会であって欲しいものである。

美術学部美術文化学科教授　山田耕二

特集 keep our cultural heritages

芸術を遺す

13年の歳月をかけて修復されたサン・ヴァンサン大聖堂壁画「聖母の眠り」

聖堂壁画修復について

私はフランスにおける聖堂壁画修復に携わって、すでに30数年がたちました。中世時代に建造された聖堂は壁画や彫刻で荘厳に装飾されましたが、時代の経過とともに文化財は老化します。ヨーロッパでは聖像破壊運動や革命などにより、人為に破壊され損傷されています。また、人間の思想が変化して過去の壁画を塗りつぶし、そのうえにまた新しく壁画を描くことはしばしばありました。修復保存の仕事はそれらの壁画の原点に近づき、甦らせ、未来に正しく伝えてゆかなければなりません。

時代が変わっても、文化遺産の修復保存の仕事はさまざまな形で作業が続けられました。フランスでは、とりわけ、プロスペール・メリメ（1803－1870年）がフランス文化省、歴史建造物局の初代監督長官になったころから、本格的に保存修復事業がおこなわれるようになってきました。

現在、フランスには修復家を養成する二つの国立大学がありますが、以前は専門家のアトリエで修業する以外に修復家になれる道はありませんでした。私は10年余り、専門家について学び、その後イタリアの国際修復研究機関で学んで修復家の資格を取得し壁画修復家として独立しました。それ以後はフランス文化省より直接、修復保存の仕事を委託されフランス全土、とくに、12世紀から15世紀の壁画が多い、ブルゴーニュ、アルザス、リムーザン地方で仕事をしてきました。

壁画は同時代でも地域によって表現方法や、色彩も異なります。剥落寸前の壁画、薄黒くなった壁画など、壁画の状態は様々で何時も同じ方法では修復できません。修復家が壁画を傷めてしまう場合もありますから、私は壁画に手を触れる前に、長い時間をかけて壁画の状態を細かく調査し、修復保存の方法を考えてから仕事に臨みます。

修復保存の仕事は一瞬の油断も失敗も許されない非常にきびしい世界です。この仕事に情熱を燃やし、過去の人々が壁画を創造してきたように、壁画に触れ、修復を通して得た中世の精神と技法は私にとって多大な収穫です。

これからも各時代の人間が文化遺産を保存し、維持して行くことは、我々の責務といってよいと思います。

美術学部絵画科名誉教授　髙橋久雄

サン・ヴァンサン大聖堂壁画（フランス）での模写作業の様子　2007年

◎ただいま作業中です

現在、本学絵画科日本画コースでは、髙橋先生が修復されたサン・ヴァンサン大聖堂のフレスコ壁画を日本画の技法を用いて模写をしています。今秋には完成し、フランスと日本での公開を予定しています。

レビュー REVIEW レポート

project N 32 名知聡子展

2008年1月26日 –3月23日
東京オペラシティーアートギャラリー（東京）

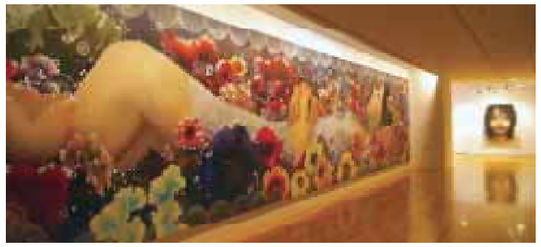
東京オペラシティアートギャラリーでは、若手作家の育成・支援を目的としたプロジェクトNという展覧会を開催している。今回は本学卒業生（'05'卒業）の名知聡子が選ばれた。

会場案内に従って正面奥に眼をやると明るい外光に照らされ、何か言いたげな様子の名知自身のポートレイト作品が小さく、しかし鮮やかに佇んでいる。

長く続くギャラリーのフローリング床と白く塗られた壁、そして微調整された陰影が美しい。その左手前には大作「天井の下」（パネル3枚合せ）が掛けられ、闇間にほのかに浮かび上がる様に照らし出されている。そこでは歪んだかのような構図で描かれた、抱擁している男女の姿が強烈だ。しかし、眼を凝らすほどに浮かび上がる、はかなくまどろんだ悲しげな作者自身の表情。両目の廻りが涙を流した後のように白く光っている。学生時代の自由奔放な名知からは想像できないほどの、細部まで行き届いた神経とテクニックが施されたあまりに緻密なその作品のリアリスティックな完成度に驚きを隠せない。

隣には、前もって壁の長さを測ったのであろう壁一面にピタッと納まったスケールの大きな最新作「幸福と絶望」（パネル6枚合せ）が飾られていた。眼を見開き、どこか虚空を見つめ、横たわる作者自身の姿、組んだ両手の内部は、まるで宇宙にでも繋がっているかのように暗く深い。その廻りを幾種無数の花や光明がカラフルに咲き誇り、音楽でも奏でているかのようだ。

ここは果たして天上の楽園なのか、地の果ての闇の世界なのか。



project N 32　名知聡子展
東京オペラシティアートギャラリーでの展示風景
2008

作品に共通している印象的な漆黒の髪。それは無造作に刈ったような短髪の作品「ポートレイト」や「天井の下」の男女の長すぎる程の黒髪にも表れており強く眼を惹く。作者にとって特別な存在とも思える男性らしき人物の長髪は、画面からはみ出るほどに長く、まるでそれは女性ではないかとみまごうほどだ。

最新作「幸福と絶望」でも腰下まで続く長髪が描かれている。作者の少女の頃からの記憶がそうさせるのか。単なる黒髪に対する興味なのか、それとも憧れなのだろうか。それは源氏物語にも描かれ、平安の世に源氏の君を惑わせた美しく気品に満ちた黒髪や明治時代の天才歌人、与謝野晶子の「みだれ髪」の中の一編の詩『くろ髪の千すぢの髪のみだれ髪かつおもひみだれおもひみだるる』の内に在るような迫力ある情熱を私にイメージさせる。それらの連想と重ね合わせ、思いを絵にはせると一層作者の想いが伝わってくるかのようだ。

美術学部絵画科教授 大崎正裕

境界から見えるモノ TAKETOYO
—名古屋芸術大学洋画コース選抜展 —

2008年2月2日 – 11日
武豊町民会館　ゆめたろうプラザ ギャラリー／愛知

この展覧会は、武豊町民会館のギャラリー活性化事業として、本学に企画展を依頼されたもので、N.P.O武豊文化創造協会の協力を得て、第一回目の事業として立ち上げられたものである。

作家の選抜は、洋画コース三年生クラスから12名に絞り込んだのだが、短い準備期間の中で、武豊町という学外の場を意識して、現段階で、作品の様式、方法論の明解な作品を中心に刺激と親和の両面の観点から選んだ結果、相当にレベルの高い仕事を提示できたと考える。

ギャラリーは、現代美術の展示を行う上では弱冠の問題点もあったが、平面作家として内外で活躍されている本学講師杉戸洋先生の指導のもと、単に羅列するのでは無い、作品同士がコラボレートする、魅力的な空間を作ることに成功した。

美術学部絵画科教授 吉本作次

レポート　会田 誠 アーティスト・トーク
「私のやり方」

2008年1月18日
本学西キャンパス大講義室

美術学部絵画科洋画コースの特別講義として、本学講師鬼頭健吾先生を進行役に開催された、現代美術作家の会田誠氏のアーティスト・トーク。「私のやり方」というテーマは、自分のやり方はあまりお勧めできないという意味でつけられたものだが、一方で皆それぞれのやり方があるはず、という意味が込められている。

高校時代、小説家か漫画家になりたかったという会田氏。その後芸術と大衆の狭間にあるもの（今ならサブカルというのだろうが）に惹かれ、表現者になりたいという思いが強くなったという。

会田氏にとって制作するということは「欠点を強調する、自分の中の偏向性をデフォルメする、あるいは拡大鏡で映すような作業」だと話し、作風の変化についての質問では、まず人間的なものが好き、そして森羅万象を美術に置き換えたいという思いで制作しており、結果的に多様な表現となったと語った。また、世界での発表も増えてきた中で、欧米中心ではない、自身のスタイルを貫いて臨んでいきたいと話した。トークは学生からの具体的な質問に応えていくかたちで続き、会場は最後まで熱気に包まれた。熱気はトークの後で行われたアトリエでの講評まで続いた。

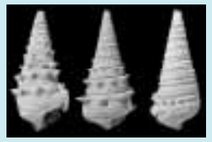
RELAY ESSAY

「自然の芸術・自然の科学」…… 東條文治

自然科学において"美"などというとまったくもって怪しまれてしまうのであるが、"化石の美と科学"という企画展をクラフォード賞(ノーベル賞対象外の研究分野に与えられる同等の賞)受賞記念に開催した人がいる。この人、ザイラッハー博士は化石研究において高い評価を受けた天才である。化石の中でも生物かどうか判断が難しいものを取り上げ、その学術的な見解を解説した展示だった。博物館入り口に突っ立った化石のシンボルたる恐竜の骨格とは違い、鑑賞する者にとってそれは作者不詳の芸術作品と化していた。

化石研究の究極の価値は"生命の歴史"を解き明かすことにあると思う。現在地球上に存在する生物を結果とすれば、そこへ至る過程の記録が化石だからだ。もう存在しない絶滅した生物も化石として今にその姿を残している、ここに最大の魅力がある。一方化石研究には，形のみでその生物の本質に迫らなければならないという弱点もあり、必然化石の研究者は形の研究者となる。

ザイラッハー博士は、生物の形を三つの側面に分解した。生態適応的側面は、環境に適応した機能性による制約。歴史系統的側面は、祖先から引き継いだもので形を作るという制約。図は、その制約の中で、突起の発現時期を変える例。建造技術的側面は、形を作る過程による制約。車の製作は完成してから走れれば問題ないが、生物は製作開始（誕生）から完成（成体）まですべての段階で生きていなければならない。これらの複合的な制約による綱引きのバランスこそ生物の形の妙味であると博士は分析している。一方で生物の形を作者不詳の芸術作品として観たときに、芸術家はいかに評するか、伺ってみたいものだ。



絶滅した巻貝化石ビカリアにみられるヘテロクロニー

人間発達学部教養部会 助教